

【質問】

ごみ処理施設に見えない外観(デザイン)とした理由はなぜですか？

【回答】

迷惑施設と呼ばれるごみ処理施設を整備するには、地元の方の理解と協力がなくては進めることはできません。

多くの方は、ごみ処理施設の必要性を認めていても、身近な場所に建設されることへの抵抗感が強く、平成8年から新ごみ処理施設の検討を始めましたが、20年以上が経過しても建設を受け入れてもらえる場所(地区)はありませんでした。

この間、市内にある3つのごみ処理施設(※1)の老朽が進み、市民の皆様の清潔な生活環境を守るうえで、3施設を集約した新ごみ処理施設の整備は本市の喫緊の課題となっていました。

このような中、現在の菖蒲清掃センターの地元の方から、周辺環境への配慮や公園整備などを条件として、菖蒲清掃センターの5倍の規模(30t→155t/日(※2))となる新ごみ処理施設の整備を受け入れていただいた経緯があります。

新ごみ処理施設では、今後、何十年にも渡り本市と宮代町の全てのごみを処理していくこととなりますが、地元の方だけに負担を押し付けないよう、**従来の工場のような箱型の外観ではなく、迷惑施設というイメージを払拭し、周辺環境へ溶け込んだやわらかい外観の新ごみ処理施設**としたものです。

※1 市内にある3つのごみ処理施設とは、久喜宮代清掃センター、菖蒲清掃センター、八甫清掃センターを指します。

※2 現施設と新施設、それぞれの焼却施設の処理能力については、次表のとおりです。

現・新	施設名	処理能力
現施設 (令和9年3月廃止予定)	久喜宮代清掃センター	150 t / 日
	菖蒲清掃センター	30 t / 日
	八甫清掃センター	105 t / 日
新施設 (令和9年4月稼働予定)	クリーンセンター (新ごみ処理施設)	155 t / 日

【質問】

新ごみ処理施設を造ると市にお金がなくなると聞いたのですが、実際にはどうなのですか？

【回答】

現在、市内には3つのごみ処理施設があり、ごみ処理費用(※3)は、年間で約29億円です。

一方、新ごみ処理施設の稼働後のごみ処理費用は、年間で約15億円となり、現在と比較して年間で約14億円の削減できます。

なお、これに新ごみ処理施設の建設費の約153億円(国からの交付金等を除いた実際の負担額)を加えたとしても、**年間で約10億円の削減(※4)**ができるため、新ごみ処理施設を整備することで、現在より市の支出が増えるということではなく、削減が見込めます。

※3 施設運営・収集・資源選別・塵芥処分・資源売却・売電収入などの収支の差額がごみ処理費用です。

※4 ごみ処理施設の一般的な稼働期間である35年間で計算すると、次のとおりです。

- ・ 現在 : 約29億円×35年間＝約1,015億円
- ・ 新施設 : 約15億円×35年間＋約153億円＝約678億円
- ・ 比較 : (1,015億円－678億円)÷35年間＝約10億円/年

【質問】

新ごみ処理施設の煙突が豪華と聞いたのですが、実際はどうなのですか？

【回答】

新ごみ処理施設の煙突は、次世代煙突と呼ばれる「膜(まく)」を使用した煙突で、従来のコンクリート製の煙突と比べて、費用・機能・安全性・デザインで優れています。

費用面では、煙突の外壁となる膜素材が軽量の「フッ素樹脂」のため、従来のコンクリート製の煙突と比べ構造となる鉄筋が少なく、また、外壁塗装も不要のため、建設・維持管理コストが低減できます。

機能面では、膜素材が「フッ素樹脂 酸化チタン光触媒膜」のため、約 35 年間に渡り汚れが付きにくく、また、窒素酸化物(NOx)を分解する浄化機能を持っています。

安全性では、膜素材が軽量のため、震災時などに煙突の倒壊が生じにくく、また、従来のコンクリート製の煙突と比べ亀裂や剥落がなく、防災や減災に優れています。

デザイン面では、従来のコンクリート製の煙突と比べ自由性のあるデザインが可能となるため、ごみ処理施設と連想されない周辺環境に溶け込んだデザインとすることができます。

特にこのデザイン面から豪華と思われることもあるようですが、従来のコンクリート製の煙突と比べて、**費用・機能・安全性・デザインで優れた煙突**となっています。